



A-Z Homage to Takenobu Igarashi

10.4 SAT → 11.10 MON 2025

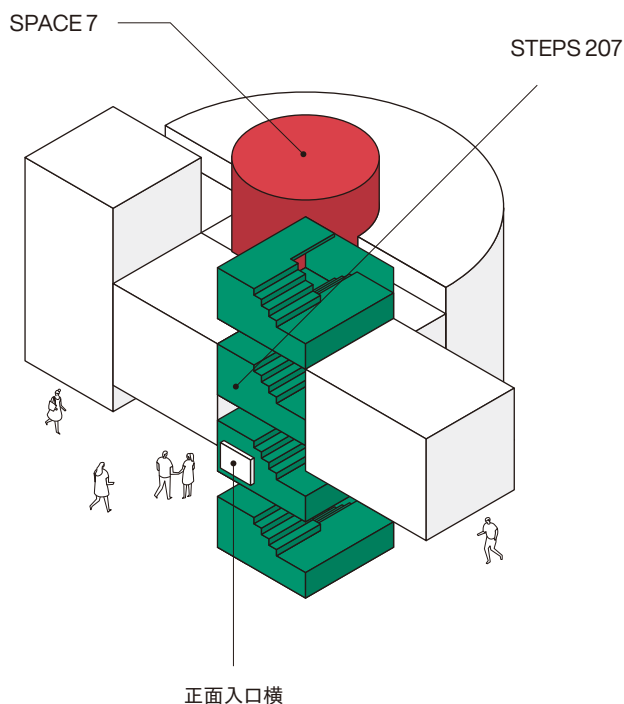
札幌PARCO SPACE 7 7F / STEPS 207 B2F-7F / 正面入口横 1F

五十嵐氏とPARCOの出会いは、1981年にオープンした渋谷PARCO PART3のプロジェクトでした。中心的なデザイナーのひとりとして参加した五十嵐氏は、ロゴや看板、ショッパー、館内グラフィックなど、多くのデザインを手がけました。シンプルで力強いPARCOロゴは、社内で「五十嵐ロゴ」として愛され、吉祥寺や名古屋などで現在も外壁サインとして使用されています。建て替えのために解体された渋谷PARCOの外壁から取り外されたネオンサインは、現在は渋谷や心斎橋の店舗内で大切に常設展示されています。五十嵐ロゴは、世代を超えて語り継がれるPARCOの文化を象徴する存在です。

サントリー、明治乳業、カルピスなどのロゴを手がけ、立体的なアルファベット作品によって世界的に注目された五十嵐氏。独自の手法で数字を表現したポスターカレンダーは、国際的な評価を不動のものとなりました。本展では、1994年に彫刻家に転身する以前の、デザイナーとしての五十嵐氏の活動に焦点を当てます。PARCO PART3のためのロゴデザインを紐解き、書体のバリエーションも紹介。AからZまでのアルファベットを題材にした彫刻やグラフィックデザインの作品を中心に、札幌PARCO館内全体を舞台として、氏の創造性あふれる作品を一堂に展示します。



展覧会公式サイト



会場 1 SPACE 7 7F

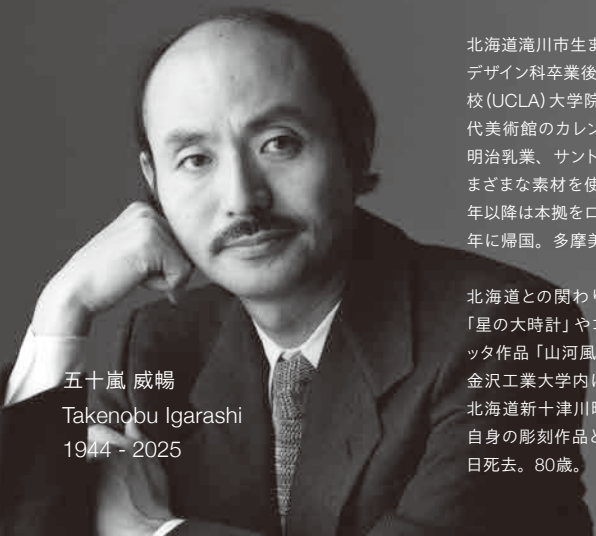
渋谷PARCOのストリートギャラリーで発表されたアルファベット彫刻（現存する24点）や、ニューヨーク近代美術館（MoMA）のポスターカレンダーの原型となった、「PARCOバージョン」のポスターカレンダー（1982年）を展示。

会場 2 STEPS 207 B2F-7F

札幌PARCOの階段の壁に掛かる、1980年代に五十嵐氏がデザインしたフロアサイン。五十嵐氏に誘われるように、今回、階段を展示会場として使うことを決めました。呼称は階段の段数にちなんで「STEPS 207」。こけら落としとして「A-Z Homage to Takenobu Igarashi」を開催。

会場 3 正面入口横 1F

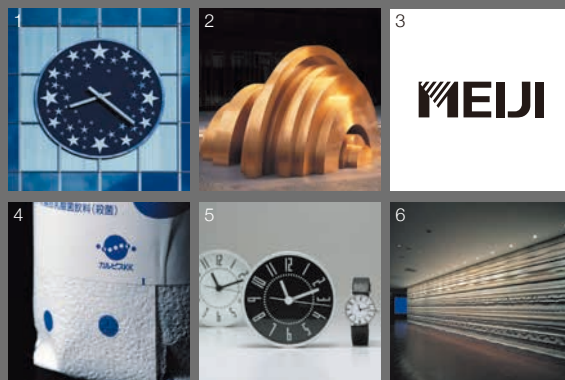
2025年2月に松本PARCOが閉店しました。そこで使用されていた外壁ネオンサインを展示しています。この書体は、五十嵐氏がPARCO PART3のために1981年にデザインしたものです。PARCO社内では「五十嵐ロゴ」として大切に使い続けてきました。



五十嵐 威暢
Takenobu Igarashi
1944 - 2025

北海道滝川市生まれ。デザイナー、彫刻家。多摩美術大学デザイン科卒業後、渡米。カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）大学院修士課程修了。代表作にニューヨーク近代美術館のカレンダー、渋谷PARCO PART3やカルピス、明治乳業、サントリーのロゴなどがある。1980年代にはさまざまな素材を使いアルファベット彫刻を手がけた。1994年以降は本拠をロサンゼルスへ移し彫刻制作に専念。2004年に帰国。多摩美術大学では学長をつとめた。

北海道との関わりも深く、札幌駅の「JRタワー」のロゴ、「星の大時計」やコンコースの駅時計、展望室T38のテラコッタ作品「山河風光」などを手がけた。北海道文化賞受賞。金沢工業大学内には「五十嵐威暢アーカイブ」が設立され、北海道新十津川町の「五十嵐威暢美術館かぜのび」では、自身の彫刻作品とアトリエを公開している。2025年2月12日死去。80歳。



1 札幌駅 星の大時計 / 2 サントリーホールの彫刻 / 3 明治乳業ロゴ / 4 カルピスロゴ / 5 eki クロック&ウォッチ / 6 山河風光